

「森林管理署長が語る」

日光森林管理署長
中村 昌有吉

【はじめに】

栃木県内には日光森林管理署と塩那森林管理署の2つの森林管理署があります。このうち私が所属している日光森林管理署は、日光市、宇都宮市、足利市、佐野市、鹿沼市及び益子町に所在する約8万5千haの国有林を管理しています。

これら国有林の9割以上が日光市内にあり、約4万9千haが日光国立公園に指定されています。中禅寺湖周辺や戦場ヶ原、鬼怒沼（日本一標高の高い所にある高層湿原）、奇岩・怪岩で有名な龍王峡といった優れた景勝地も国有林内にあることから、観光や自然探勝の場として多くの方々が訪れています。



【「国民参加の森づくり」による取組】

国有林の果たす役割には、森林を良好で健全な状態で維持・管理すること、地域で必要とされる木材を安定的に供給することをはじめ様々なものがありますが、地域のボランティア団体等が自ら参加し、署と協定を締結することにより社会貢献や森づくりを目的とした活動を行う「国民参加の森林づくり」の取組があります。今回は日光森林管理署管内で行われているこうした取組について、いくつか代表的なものをご紹介します。

（フォレスト古賀志山）

宇都宮市の古賀志山周辺で登山道の維持・管理等の活動を行っている特定非営利活動法人「古賀志山を守ろう会」との間で、令和6年5月に「多様な活動の森」の場として77.3haの国有林において協定を締結しました。

月に2回を活動日として、登山道の維持・修繕（丸木橋の整備など）等の環境整備や登山者の安全確保を目的とした山名板、主要な分岐路への道標の設置といった保全活動を行っているほ



か、宇都宮市と連携して古賀志山周辺地図を作成し、近隣駐車場に掲示板を設置して普及活動を行うなど、古賀志山の情報を提供するとともに山岳事故の防止にも努めているところです。

古賀志山周辺には、自然発生的にできた登山道が多数存在し、道迷いや危険な場所へ誤って踏み入れるなどの恐れもあるため、署としても正規の登山道への誘導や、安全な登山ルートの整備など、古賀志山を守ろう会のほか栃木県、宇都宮市等の関係者とも協議し、対策を講じていく必要があるものと考えているところです。



（小倉山野鳥の森）

JR 日光駅・東武日光駅からもほど近い日光市内の小倉山の45.1haの国有林において、日本野鳥の会栃木県支部との間で、平成16年より「多様な活動の森」の協定を締結し、同会と連携しながら森林に親しむ活動を行っています。

これまで、一般の方々を対象として年2回の探鳥会を実施してきましたが、本年度以降は協定区域内の人工林の伐採跡地にミズナラ、ヤマザクラといった広葉樹を植栽し、針広混交林化を進めていくことにより、野鳥が住みやすい森林づくりを目指した取組を行っていくこととしています。



【奥日光いきもの集いの森】

奥日光の菖蒲ヶ浜スキー場跡地には、特定外来生物であるオオハンゴンソウが広範囲にわたって蔓延し、近接する戦場ヶ原、小田代原などの貴重な高山・湿原生態系への影響も懸念されていることから、オオハンゴンソウの根絶とともに、本来の植生へ移行させることを目的として、約6haの国有林を対象として令和7年5月に「多様な活動の森」協定を締結しました。

対象となる国有林を「奥日光いき



もの集いの森」と称し、森づくりの体験活動としてボランティアを募り、地元関係者との交流を深めるとともに、地域全体での活性化を推進することを活動の柱とし、今後、オオハンゴンソウの除去、周辺から採取した種子を育苗した広葉樹の植栽、シカの影響を排除するための柵の設置等の作業を行うこととしているところです。

5月24日には、協定に基づく第1回目の活動を実施し、環境省日光国立公園管理事務所や宇都宮大学等の協力の下、約50名が参加してオオハンゴンソウの除去活動を行いました。



【「孤高のブナ」の保護】

日光市の足尾地区では、過去の鉱山活動に伴い発生した亜硫酸ガスや山火事等の影響により進行した約2,400haに及ぶ森林荒廃地の復旧・緑化事業が、林野庁のほか国土交通省、栃木県の連携により行われてきました。その結果、対象地域の約50%において緑化が進み、現在では地元NPO等のボランティアによる植樹活動も盛んに行われています。

そのうちの一つに、「森びとプロジェクト」という団体による活動があります。発足して20年となる当該団体は、日光署はじめ地元企業や地域の関係者との協力の下、足尾地区の松木沢を中心に植樹・緑化活動を行ってきましたが、8年前（2017（平成29年））から中倉山山頂付近に単木で生育しているブナの保護活動を行っています。このブナの木は、その姿からいつしか「孤高のブナ」と呼ばれ、SNSで紹介されて一躍有名になり、今ではこの木を目的に多くの登山者が訪れるようになりました。

具体的な活動内容としては、ブナの生育地の土砂流出を防ぐための植生マットの設置を年2回、

ボランティアを募って実施するとともに、2年前（2023年（令和5年））には「孤高のブナ」の実生苗を現地付近に植栽し、「希望のブナ」として次世代を育てる活



動にも取り組んでいます。

【結びに】

各種団体等による森林づくり活動については、今回紹介したもののほかにも行われており、HP でも概要を紹介していますのでご覧ください。

(URL : https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/nikkou/kyotei_kokumin/kokumin_sanka.html)

また、国有林内において同様の活動を行ってみたいという方は、日光森林管理署（そのほかの署の管内においては最寄りの森林管理署）まで遠慮なくお問い合わせいただければと思います。